

2. 首都直下地震等の被害想定

わが地区の災害時の危険性を「鳥の目」で把握するために、最新の被害想定等のデータや地図を学習し、災害時の被害をイメージしましょう。

(1) 東京都の被害想定

◎東京湾北部地震による東京都の被害想定 (平成 24 年 4 月 18 日、東京都公表)

○首都直下地震、東京湾北部地震 (M7.3)、
冬の夕方 18 時・風速 8m/秒

人的被害	原因別	死者	約 9,700	人
		揺れ	約 5,600	人
		火災	約 4,100	人
	負傷者 (うち重傷者)	約 147,600	人	
		(約 21,900)	人	
原因別	揺れ	約 129,900	人	
	火災	約 17,700	人	
物的被害	原因別	建物被害	約 304,300	棟
		揺れ	約 116,200	棟
		火災	約 188,100	棟
避難者の発生(ビウ:1日後)		約 339 万	人	
帰宅困難者		約 517 万	人	

◎板橋区の被害想定

○首都直下地震、東京湾北部地震 (M7.3)、
冬の夕方 18 時・風速 8m/秒

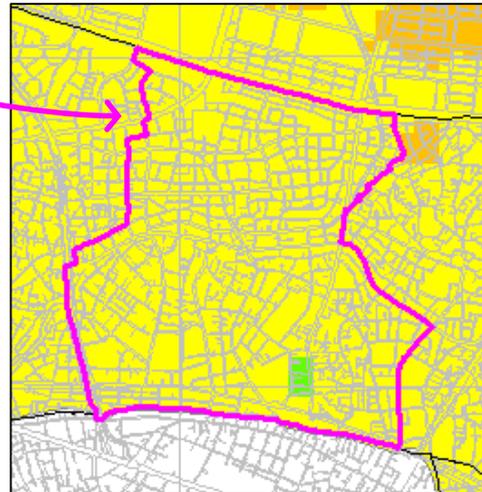
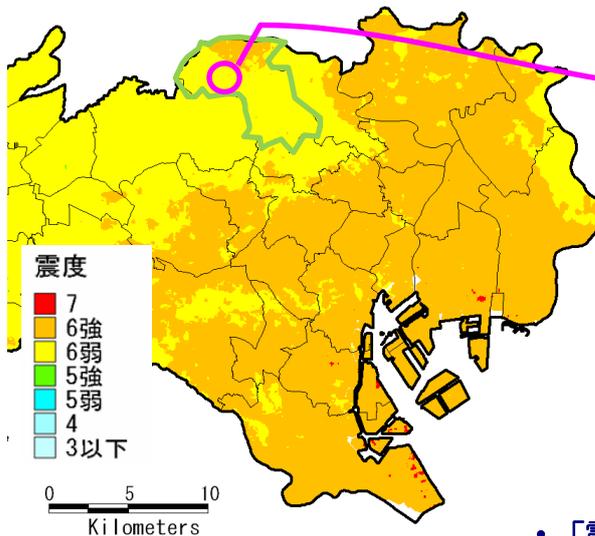
- 死者：81 人(0.02%)
- 負傷者：2,657 人(0.5%)
- 建物全壊：1,656 棟(1.8%)
- 建物焼失：747 棟(0.8%)
- 避難者：71,832 人(13.4%)
- 帰宅困難者：104,123 人(22.81%)

(注) 比率は、死者・負傷者・避難は夜間人口比で、
帰宅困難者は昼間人口比で算出。

(注) 火災は冬の 18 時・風速 8m/秒の想定

出典：H24 東京都防災会議 首都直下地震等による東京
の被害想定報告書

①想定震度分布

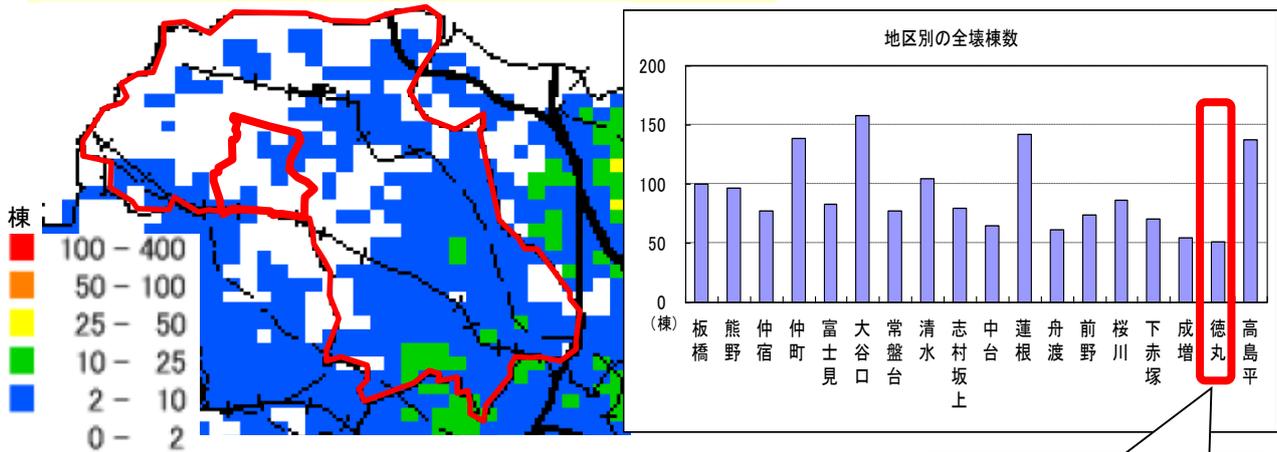


・「震度 6 弱」とは？

- ・東京湾北部地震 (M7.3) の想定。
- ・板橋区は、ほとんどの範囲で震度 6 弱、一部、北部に震度 6 強が想定されている。
- ・徳丸地区は、震度 6 弱の想定となっている。

人の体感	立っていることが困難になる。
屋内の状況	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
屋外の状況	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。

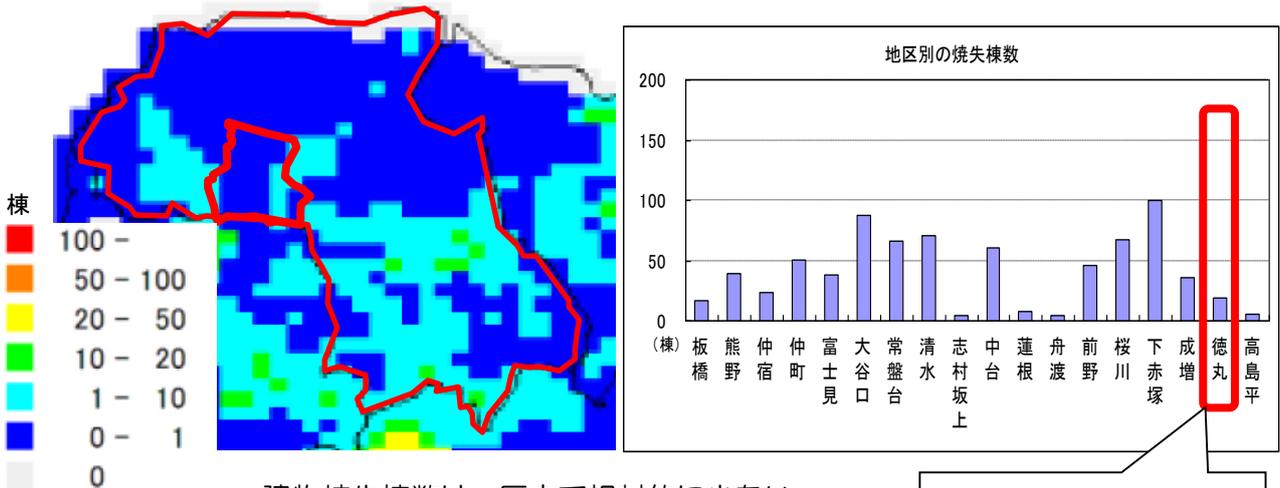
②木造建物全壊棟数の分布（ゆれ）



・木造建物全壊棟数は、板橋区内において最も少ない。

51 棟（板橋区内 18 位）

③建物焼失棟数の分布（火災）（冬 18 時・風速 8m/秒）



・建物焼失棟数は、区内で相対的に少ない。

19 棟（板橋区内 13 位）

(2) 東京都の液状化予測

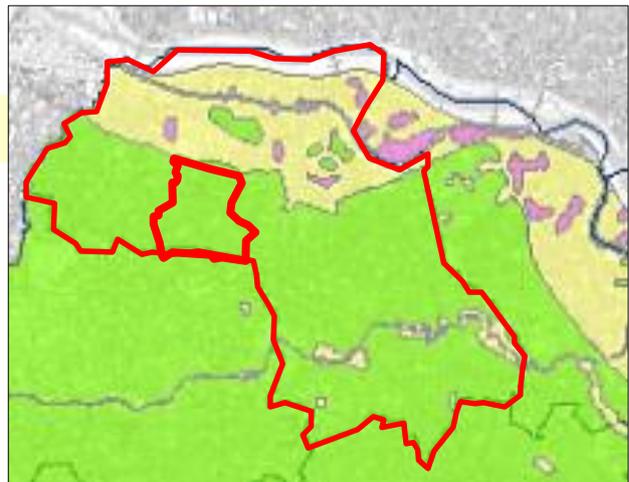
液状化危険度の分布

- ・液状化危険度は低い。
- ・北側に隣接する荒川後背湿地で液状化の可能性がある。

液状化予測図

- 液状化の可能性が高い地域
- 液状化の可能性がある地域
- 液状化の可能性が低い地域

出典：東京の液状化予測図（平成 24 年度版）



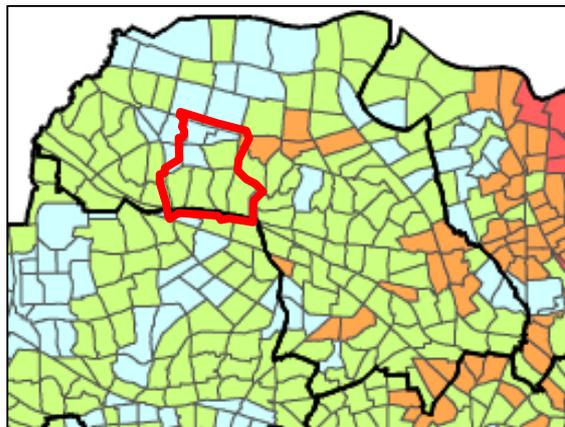
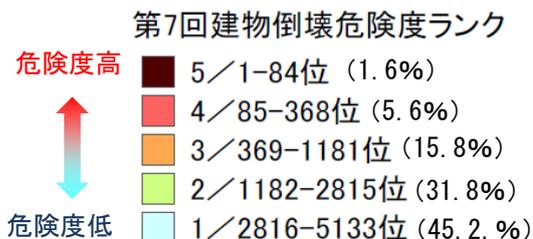
(3) 地震に関する地域危険度

出典: H25 東京都 地震に関する地域危険度測定調査報告書

町丁目別の地域危険度測定調査を実施し、5,133 丁目を相対的に5段階評価したもの

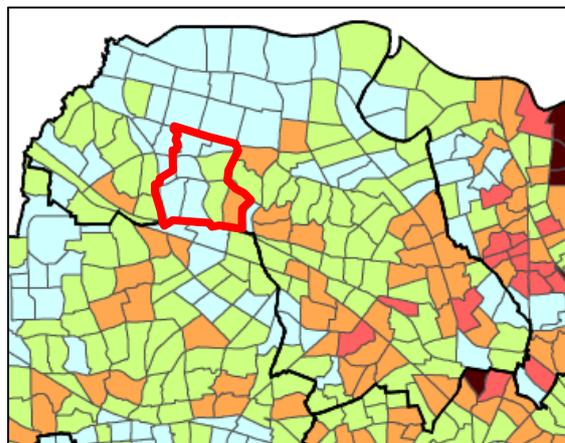
①建物倒壊危険度

- 建物倒壊危険度は、全体的に低い。



②火災危険度

- 火災危険度は、地区東側の一部が高い。



(4) 板橋区洪水ハザードマップ

(H17. 7 作成)

新河岸川・石神井川版

- 平成12年9月の東海豪雨と同様の降雨があった場合の浸水状況を想定。
- 前谷津川（暗きよ）と北側境界線に沿って浸水が想定。

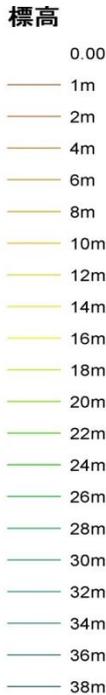
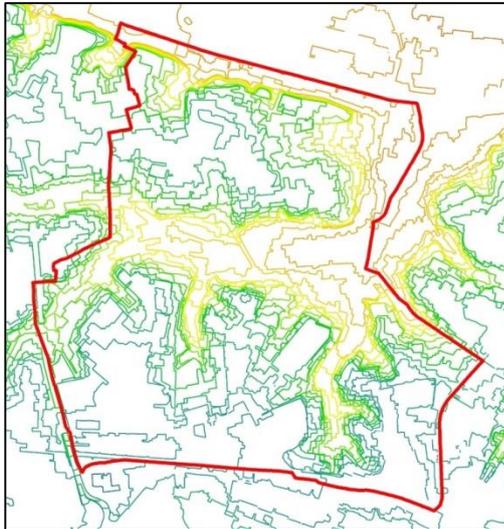
大規模浸水時避難所	●
小規模浸水時避難所	◆
避難所とならない学校	●
区役所	◎
河川	—
水の深さ 2.0m以上	■
水の深さ 1.0m～2.0m	■
水の深さ 0.5m～1.0m	■
水の深さ 0.2m～0.5m	■



3. 徳丸地区の地域特性

地域特性（地盤、土地利用、建物属性、人口特性データ等）から、わが地区の災害時の被害をイメージしましょう。

① 地形



- 徳丸地区の標高8m~34m。
- 地区内に凹地が存在し、高低差が激しい。

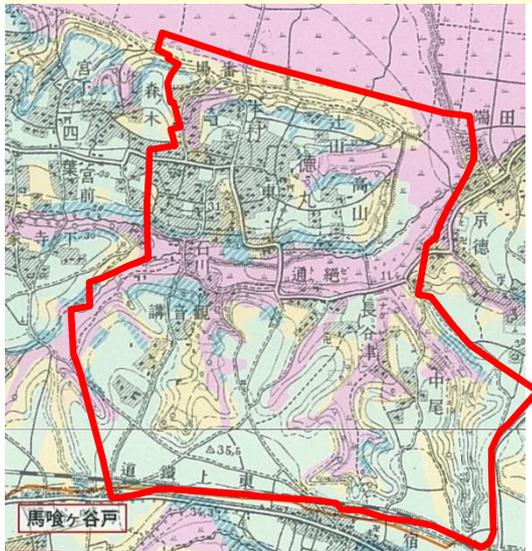
② 土地条件図



- 武蔵野台地のへりにあたる更新世段丘の間に、盛土地や凹地・浅い谷が見られる。

更新世段丘	
盛土地・埋立地	
凹地・浅い谷	
切土地	
山地斜面等	

③ 旧版地図・地盤の揺れやすさ評価



- 更新世段丘は危険度が中であるが、盛土部分の危険度が高い。
- 地区北側の荒川後背湿地も危険度が高い。

揺れやすさ評価	
中	
やや大	
大	
評価対象外	
山地斜面等	

④ 土地利用-都市基盤



- 東武練馬駅や地区内を通る補助幹線道路など、交通アクセスが良い。
- 学校や公園が整備されている。

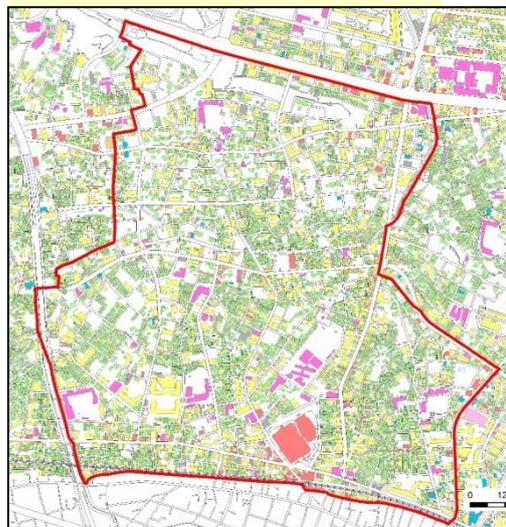
⑤土地利用-都市基盤



一低	第一種低層住居専用地域	近商	近隣商業地域
一中高	第一種中高層住居専用地域	商業	商業地域
一住	第一種住居地域	準工・特	準工業地域(第二種特別工業地区)
準住	準住居地域	準工	準工業地域

- 大部分が住居系の土地利用。
- 幹線道路沿い→商業系。
- 東武練馬駅付近→準工業系。→大規模商業へ

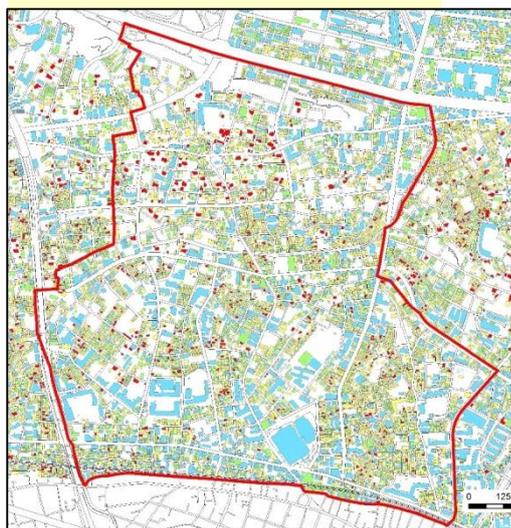
⑥建物属性-建物用途



公共・公益施設	独立住宅	専用工場
商業・業務建物	集合住宅	住居併用工場
住商併用建物	倉庫運輸関係施設	

- 棟数割合、建築面積割合ともに、独立住宅が最も高く、集合住宅がこれに次いでいる。

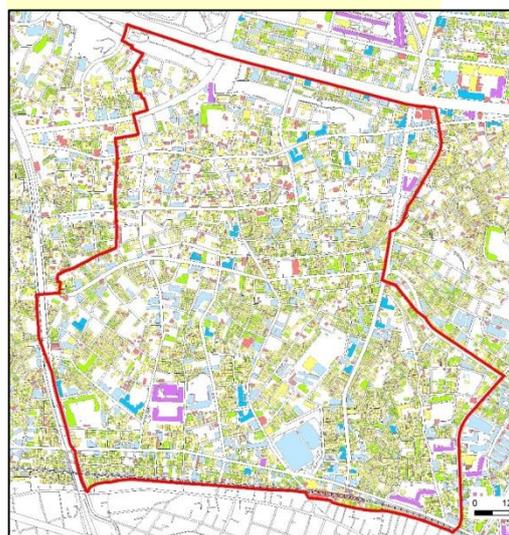
⑦建物属性-建物構造



耐火構造	防火造
準耐火造	木造

- 木造・防火造が約6割を占める。地区北部に木造が多い。
- 耐火構造は、広幅員道路など、接道条件の良い敷地に多い。

⑧建物属性-建物階数



1階	4階～6階
2階	7階～9階
3階	10階～15階

- 1～3階建てが95%を占める。
- 7階建て以上は広い道路沿いに多い。

⑨人口属性-高齢者率（町丁目別）



- 高齢者率（65歳以上）は、区平均（21%）より低い所がある。
- 北側に比べ南側が高い。

高齢者率	
0%以上10%未満	
10%以上20%未満	
20%以上30%未満	
30%以上40%未満	

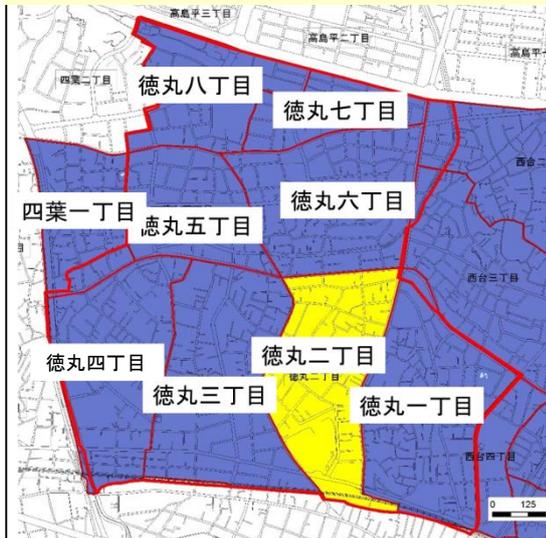
⑩人口属性-高齢者がいる世帯割合（町丁目別）



- 65歳以上を含む世帯の割合は、区平均（29%）とほぼ同じであるが、徳丸七・八丁目は少し低い。

65歳以上の世帯員がいる世帯数割合	
0%以上10%未満	
10%以上20%未満	
20%以上30%未満	
30%以上	

⑪人口属性-昼間人口指数（町丁目別）



- 昼間人口指数（夜間人口を100とした場合の昼間人口）は、東武練馬駅や大型ショッピングモール等がある徳丸二丁目が目立って高い。

昼間人口指数	
0以上100未満	
100以上200未満	
200以上300未満	

地域の特徴からみた被害想定

- 地区が幹線道路によって分断されており、災害時の著しい渋滞により、地区住民の安全な避難が妨げられる可能性がある。
- 木造密集市街地が分布しているため、建物倒壊や火災による延焼の危険性がある。
- 密集市街地は道路幅員が狭く、行き止まりも多いため、安全な避難や緊急車両の通行が妨げられる可能性がある。
- 石神井川付近の低地では、液状化する可能性が高く、地盤や地下埋設物（ライフライン）等の被害が想定されます。また、豪雨時に水害の心配もある。

出典一覧：①ミッドマップ東京 1/2500 地形図、②③首都大地震ゆれやすさマップ 2013 年旬報社、④板橋区都市計画マスタープラン、⑤H25.4 板橋区用途地域図、⑥～⑧H23 東京都土地利用現況調査、⑨～⑪H22 板橋区国勢調査